

令和 3 年度 第 1 回 大洗町地域公共交通会議 議事録

会議の名称	令和 3 年度 第 1 回 大洗町地域公共交通会議
開催日時	令和 3 年 12 月 14 日(火) 14:00～15:30
開催場所	トヨペット スマイルホール 大洗(大洗文化センター)大会議室
出席者	関委員、飯田委員、山戸委員、大里委員、山田委員、飛田委員、中本委員、角田委員、川上委員、服部委員、鈴木委員、牧瀬委員、中村委員、菅原委員、小林委員、大川委員、津幡委員、長谷川委員、高柳委員、磯野委員、阿部委員、中島委員（代理：國井委員、松金委員） (委員数:24 名) 事務局:大洗町 まちづくり推進課 渡邊課長、菅谷係長、坂本主任、鹿志村主事、鈴木企画員
欠席者	無し
会議次第	1. 開会 2. 委嘱状の交付 3. 大洗町副町長挨拶 4. 役員選出 5. 議事 - 第 1 号議案 大洗町地域公共交通会議規約(案)について - 第 2 号議案 大洗町地域公共交通会議事務局規程(案)について - 第 3 号議案 大洗町地域公共交通会議財務規程(案)について - 第 4 号議案 令和 3 年度大洗町地域公共交通会議事業計画(案)について - 第 5 号議案 令和 3 年度大洗町地域公共交通会議収支予算(案)について 6. 協議事項 (1)大洗町の公共交通の現状について (2)意見交換 7. その他 8. 閉会
会議における主な決定事項	役員選出 ● 役員については、委員の互選により定めることとなっているが、選出方法について意見を求めたところ、事務局一任の声があり、以下の事務局案を説明し、事務局案のとおり選任された。 会 長(1 名):関委員 副会長(1 名):山田委員 監 事(2 名):飯田委員、山戸委員

	議事 第1号議案 ● 事務局が案(1～4 頁)について説明後、事務局案のとおり承認された。 第2号議案 ● 事務局が案(5～6頁)について説明後、事務局案のとおり承認された。 第3号議案 ● 事務局が案(7～9 頁)について説明後、事務局案のとおり承認された。 第4号議案 ● 事務局が案(10～11 頁)について説明後、事務局案のとおり承認された。 第5号議案 ● 事務局が案(12 頁)について説明後、事務局案のとおり承認された。
議事の経過及び発言の要旨	別紙の通り

【議事の経過及び発言の要旨】

役員選出までまちづくり推進課渡邊課長が司会を務めた。

1. 開会

14:00 に開会した。

2. 委嘱状の交付

大洗町地域公共交通会議委員 24 名に対し、國井大洗町長から委嘱状の交付があった。

3. 大洗町副町長挨拶

現在、本格的な人口減少時代を迎え、全国の多くの地域において、路線バスなどの公共交通サービス需要の縮小や、運転者不足などにより、地域の公共交通の維持・確保の難しさが指摘されており、一方では、高齢者の運転免許の自主返納が年々増加するなど、地域住民の移動需要の受け皿の確保が重要な課題となっています。

現在、本町内の公共交通機関としては、鉄道 1 路線、路線バス 2 路線、タクシーがあるほか、2 種類のコミュニティバスが運行されています。

こうしたなか、本町では、第 6 次大洗町総合計画を策定するに当たり、昨年 3 月に町民意向調査を実施しました。そのなかで、「これから大洗町に住み続けたいか」との設問に関し、「住み続けたくない」と回答した方の理由の上位に、「買い物などの日常生活が不便である」、「公共交通が利用しにくい」が挙げられ、年代別に見ると特に若年層と高齢者層に多い傾向が見受けられました。

こうしたことから、本町としても、新たに当会議を設け、本日お集りの交通事業者や、地域の関係者の方々のご協力をいただきながら、町民の日常生活を支えることに加え、町外から観光等を目的に来訪される方々の需要にも応え得る、持続可能な地域公共交通の維持・確保に向けて、様々なご協力をいただきたいと思います。そのうえで、町としての地域公共交通計画の取りまとめまで進めて参りたいと思います。

4. 役員選出

役員については、委員の互選により定めることとなっているが、選出方法について意見を求めたところ、事務局一任の声があったため、以下のとおり事務局案を説明した。

会 長(1 名):関委員

副会長(1 名):山田委員

監 事(2 名):飯田委員、山戸委員

以上の説明後、事務局案のとおり承認された。

会長挨拶 :皆様にご承認いただき、会長を仰せつかりました。皆様にご協力いただきながら、また副会長である山田委員のサポートをいただきながら、まとめて参りますので、よろしくお願いいたします。

副会長挨拶:公共交通会議の運営について、どのようなやり方があるのか、そのあたりからお手伝いしていけばと考えております。

よく言われるのが、利用者は乗ってくれるのか、という話です。これまでの経験上、定量的に言えることは、人口が多いところ、バスが廃線になったところであれば、乗ってくれる。それ以上のことはどこも試行錯誤でやっており、今公共交通を利用していない人にどうやって魅力をわかっていただき、少しでも関心を持っていただけるのかということや、地域の方に合ったやり方、移動したい先に合わせたやり方など、いろいろなことを模索していかなければならないので、ぜひそのあたりで忌憚のない意見をいただきつつ進めていければと考えております。よろしくお願いいたします。

また、議長については、大洗町地域公共交通会議設置要綱第 5 条の規定により、会長が議長を務めることとなった。

5. 議事

第 1 号議案 大洗町地域公共交通会議規約(案)、第 2 号議案 大洗町地域公共交通会議事務局規程(案)、第 3 号議案 大洗町地域公共交通会議財務規程(案)について

・事務局より事務局案(1～9 頁)について説明後、以下の質疑応答があった。

角田委員:他の自治体、特に鉾田市と鹿嶋市の地域公共交通にも出席しているが、会議開催の直前に通知が来るとスケジュール調整が難しいので、2 週間前には連絡してもらえよう、事務局にお願いしたい。

事務局長:事務局としても気を付けながら、連絡・調整を行っていく。

・以上の質疑応答後、事務局案のとおり承認された。

第 4 号議案 令和 3 年度大洗町地域公共交通会議事業計画(案)、第 5 号議案 令和 3 年度大洗町地域公共交通会議収支予算(案)について

・事務局より事務局案(10～12 頁)について説明後、事務局案のとおり承認された。

6. 協議事項

(1)大洗町の公共交通の現状について

事務局より、協議事項についての参考資料に沿って説明を行った。特に 3 頁の人口減少問題や超高齢化社会への対応、4 頁の大洗町内公共交通の概要、6 頁から 15 頁の町民アンケートについて抜粋しながら要点を説明したほか、16 頁の公共交通網及び徒歩圏カバー人口では五反田地区について人口が増えているのかかわらず空白が生まれ、公共交通不便地域となっていることを説明した。

(2)意見交換

事務局の説明後、各委員より自己紹介及び大洗町の公共交通について、下記のような意見があった。

【委員からの意見等】

◆ 買い物、通院、通学など、様々なニーズがある。大洗町のコミュニティバスは住民の足及び

- 観光地を巡るために利用されるが、利用者にどうやったら乗ってもらえるかを考える必要がある。
- ◆ 町が公共交通に対してどれだけ金額をかけているのかも 1 つのポイントになると思う。
 - ◆ (事業に)観光を含めるか、どの程度の規模感でやるのかを、来年度の計画で出していく必要がある。
 - ◆ バス停まで遠い、バスが使いたい時間帯になく、買い物、通院などに不便である等、町民から多くの意見をもらっている。
 - ◆ 大洗では車がないと生活できず、車からバスへの切り替えは難しいと思われる。
 - ◆ 予算との兼ね合いもあるが、現在のままでは、日常の移動手段が少ないため、議論の余地があると思われる。
 - ◆ コミュニティバスと大洗鹿島線の接続について、時刻の調整を行っているが、未だに待ち時間がある。
 - ◆ 買い物支援について、社協で買い物バスを出して対応しているが、十分ではない。
 - ◆ 今後高齢化が進み、免許返納なども進んでいくなか、交通弱者の買い物支援が特に大きな課題の一つとなると感じている。
 - ◆ 公共交通に楽しさ、エンターテインメント性を求めることも観光の一面としてあると思う。
 - ◆ 大洗町では買い物ツアーとして月に 4 回、計 8 回ワゴン車で送迎しているが、登録者の約 7 割が常時利用している。
 - ◆ 現在セイブで「とくし丸(移動スーパー)」を実施しており、カスミでも今後同じような買い物支援を実施すると聞いている。
 - ◆ 地方では 80 代でも運転することが多くなってきており、事故などのニュースも聞くが、運転しなくても、安全に日常生活が送れるような仕組みづくりを目指す必要がある。
 - ◆ 路線バス(幹線系統)は、国の補助対象の路線であり、人口減少及び少子高齢化、近年ではコロナ禍の影響を受けて、非常に厳しい状況となっているため、将来的に廃線もあり得る状況である。
 - ◆ (コロナ禍以前の話だが)タクシーについて、高校生たちが相乗りで利用したり、7~8 月のシーズンに海水浴客が相乗りで利用したりすることが多かった。水戸で実施している 1,000 円タクシーを活用すると、そうした人々もある程度の金額で乗合で利用できる。
 - ◆ タクシーの利点は、ご自宅からご自宅、ベッドからベッドまで、個別に送迎できること、それから 24 時間、夜間も高齢者の緊急の場合に対応できることだが、費用が課題であるため、高齢者の割引やタクシーチケットの配布が必要である。
 - ◆ 大洗観光に来る若者は駐車場で車中泊をする場合も多い。19 年度の偕楽園で実施したゴルフカートのようなモビリティの実証実験が好評だったため、駐車場から街中での買い物、飲食に誘導するのに適当だと思う。
 - ◆ 大洗鹿島線は平成 4 年のピーク時には年間 358 万人が利用していたが、令和元年には 205 万人となってピーク時より約 4 割減少しており、現在はコロナ禍の影響により更にそこから 25%減となっている。
 - ◆ 免許を持っていない方、免許を返納した方、一定の病気などで車を運転できない方などが

- 増えている。返納した方も安心できる住みよい町作りが大切。
- ◆ 大洗町はロケーションが良く観光客が多いので、それに加えて日常の足として今後も利用いただきながら残していけるような公共交通を目指していきたい。
 - ◆ 地域公共交通計画について、大洗町の特徴・特性を踏まえ、誰のための、何のための計画なのか、町民、事業者の声を吸い上げてまとめてほしい。
 - ◆ 他市町村で先行して会議を開催し、デマンド型交通やコミュニティバスの導入を行っているため、それら好事例、失敗事例などを踏まえ、大洗町に合った良いものを作ることができればと思っている。
 - ◆ 公共交通を考える上で、既存のバス・タクシーなどをどう活用できるかを重点的に考えてほしい。
 - ◆ 一般のデマンドタクシーの導入には、多額のシステム費とランニングコストがかかるが、水戸市で実施している 1,000 円タクシーは既存のタクシー会社の設備をそのまま利用でき、導入にかかる費用が発生せず、また、利用者が多くなるほど市町村の負担は減る仕組みとなっているため、持続可能性がある。
 - ◆ 水戸大洗間を結ぶ交通機関として、鉄道・バス合わせて 50 本以上の移動手段がある。どのように役割分担を図るか、利用していくのかを考えることになると思うが、例えば、路線バスとコミュニティバスの路線の重複や、路線バスが大洗駅と接続していないため二次交通として機能しているかどうかについてなど、議論になるのではないかなと思う。
 - ◆ コミュニティバスについて、当初より「スクールバス」「観光の足」「免許返納した高齢者の足」の 3 つを両立させることが課題となっている。
 - ◆ バス停がない地区があるという課題について、仮にバス停があっても使い勝手のいい時刻の便がないと結局バス利用は増えないという実情がある。
 - ◆ 精神疾患・統合失調症などを抱える交通弱者は通院のため町外に行く必要があるので、バス・鉄道・タクシーの組み合わせで、上手く対応できるようにしていきたい。
 - ◆ 中高生も塾などに通うためバスを利用するので、安心して利用できる公共交通が必要である。
 - ◆ 去年の夏、大洗駅前広場ロータリーの改築が完了したが、これで終わりではなく、単に交通結節点としてだけではない、人の集まる駅前にするのが目標である。そこに来る手段として公共交通の役割に期待したい。
 - ◆ 五反田地区が公共交通空白地域になっているとの話があったが、現在五反田から祝町に抜ける都市計画道路の整備が計画されているため、今後のバスルートとして検討してもらえればと考えている。
 - ◆ 首都圏から鉄道を利用して町に来る人も増えているが、まだマイカー利用も多く、渋滞や、駅からの二次交通が弱いという課題がある。
 - ◆ 町、商工観光課の取組として、大洗駅隣のうみまちテラスでレンタサイクルを実施しており、観光施設、商店街への回遊などに利用され、月に 300 台を超える利用があり好評である。那珂湊駅、涸沼駅に加え、12月10日よりシーサイドステーションでも相互乗入が可能となった。

- ◆ 海遊号・なっちゃん号は通学支援バスとしても活用されている。海遊号は南小学校の生徒27、8名ほど、なっちゃん号は10数名ほど利用しており、運行時間は通学の時間に合わせて調整されている。保護者からはバス停の位置についての意見があり、どこまで対応できるか検討していくことも必要である。
- ◆ 事務局の話では今年度及び来年度に調査の予算が付くということで、来年度本格的に町民に実態や意識を聞く調査を実施することになると思うが、観光についても調査をするかどうかというところもあるので、まずはその辺で今回の意見を取り込んで次に繋げていければと思う。
- ◆ 今使っていない人にどうアプローチするかという問題は、なかなか難しい話であり、やはり周知にも力を入れるべき点だと思う。

7. その他

事務局より、次回日程を2月に想定していることを説明。

8. 閉会

15:30に閉会した。